

地域づくり考房『ゆめ』は、授業で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

「ゆめ」の由来… 結芽「ニースの芽を結ぶ場所」+ 夢 + 遊眼「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学

平成17年度地域づくり学生チャレンジ奨励制度



プレゼンテーション選考審査会 (2005.12.22)

論より証拠 - 「幸せな地域社会づくりへの貢献」の実践 -

審査委員長・松本大学学長 中野和朗

「幸せな地域社会づくりへの貢献」を“志”として、地域との協働を緊密にしながら「“幸せづくりの人”づくり」に邁進している松本大学ですが、それが世間から“こうげんれいしょく 巧言令色”だの“ようとうにく 羊頭狗肉”だのと言われないようにしなければなりません。そのためには“志”の実現を目指して常に実践努力する必要があります。このところ有り難いことに、大学挙げての地道な実践努力がようやく地域社会に認知されてきているように思われます。これが評判倒れにならないように、さらなる実践努力を進め、松本大学が地域にとってなくてはならない“生活必需品”のような大学になりたいというのが、私たちの“夢”でもあります。

地域づくり考房『ゆめ』は、“地域の生活必需品大学”づくりを“夢”とする松本大学のさしづめ“地域との窓口”と言えるでしょう。「学生チャレンジ奨励制度」も、そのような松本大学の“夢”の実現へのトライのひとつです。第一回の審査にプレゼンテーションされた学生諸君のプロジェクトは、いづれも私たちの“夢”に明るい展望を与えてくれるものばかりで、松本大学の“志”が“手前味噌”でも“誇大広告”でもないことの“論より証拠”となるものばかりでした。この制度への取り組みがますます活発なものになり“幸せづくり大学”が“地域の生活必需品大学”へと進化することを願っています。

Topics

平成17年度地域づくり学生
チャレンジ奨励制度

プロジェクトの芽

プロジェクト活動紹介(パート3)

地域づくりにかかわるコーディネーターサロン

松本一本ネギの復活にむけて

松本平の食材と塩尻ワインで
地域を元気に

インフォメーション

~考房内外各種イベントや
スタッフ募集のお知らせです~

ちょっと一言

松本大学は、本学学生の社会参加への第一歩となり、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる活動を支援しようと、本年度初の試みとして上記奨励制度事業を行いました。楽しみながら自らも成長し、地域も活性化し、社会貢献につながる、学生による地域づくりの活動を募集し、2005.12.22に選考審査会を実施し、4事業に助成を行いました。

認定された4つの事業の紹介

住民向けパソコン講座

「ものぐさパソコン教室」

【事業概要】

新村・和田地区の地域の方々を対象にコミュニティ・ビジネスとしてのパソコン講座を企画・運営・実施

地域交流和太鼓プロジェクト

「松風連」

【事業概要】

和太鼓を通して年齢男女問わず、地域の方々と一緒に松本市を中心に活気を起こしていく

野菜マップ作成

【事業概要】

松本市で栽培されている野菜を調査し、レシピや市場情報を入れたオリジナルマップの作成

松本大学

キッズサッカースクール

【事業概要】

サッカーを通して子供たちの健全育成とサッカーの浸透・普及を図っていく

プロジェクトの芽となる

講義「社会活動」実践報告会

2月8日、後期「社会活動」実践報告会が松本大学及び松商短期大学部合同で行われました。昨年9月10日にも前期履修者対象に実施され、合わせて92人41活動の発表がありました。

プレゼンテーション後は地域の方々や学生同士の意見交流会も行われました。

この授業からいくつかの活動が継続的に取り組まれ、地域づくり考房『ゆめ』のプロジェクトとして展開しています。

(担当：福島)



～活動の発表をする学生たち～

<地域の方・学生からのコメント>

社会参加を通して地域にかかわる、また地域に貢献できること、と課題が明確になり、自分の内的部分に視点が向き、さらにそこから行動を起こしていく経過が報告され、社会人となる学生たちには多くの学びを得ていると感じました。(横沢)

人々とのふれあいをする社会活動は、最初はそれをして何になるのかわからなかったが、実際に活動したり、みんなの発表を聞いて地域との交流をするすばらしさを知った。地域に関わることは生活を豊かにすることになる。(学生)

現場の中に入ってとても貴重な経験ができたと思います。一生懸命な姿にとっても感動しました。これからの学生生活もきっとすばらしいものになると思います。この社会活動は、この地域の大きな力になっていますね。(古屋)

みんな様々な社会活動を行っていて勉強になった。きっかけ作りは難しいものであるが、学校では学べない事や、自分にとってプラスになる事がたくさんあるので、とてもいい活動だと思うし、自分はこれからも続けていきたいと考えている。(学生)

考房プロジェクト (パート3)

活動紹介

想いをカタチに

記事の読み方

事業・プロジェクト名 事業概要

地域づくり考房『ゆめ』で、事業に関わっている学生の方に4つの質問をしました。記事では質問が省略されています。質問は以下のとおりです。

この事業・プロジェクトに出会ったきっかけは？
事業をしている中で最もインパクト（衝撃）を受けたことは？
今後どうしていきたいですか？
あなたにとってこの事業・プロジェクトは何ですか？
なお「インタビューからのコメント」となっています。

ミニFM・松大プロジェクト

ミニFM放送「松大どうでしょう？」(2005.11.20)の
2時間番組制作・生放送



生放送中・・・

先生から「ラジオの話があるからやってみない？」と言われ、放送部を立ち上げようと申請書を出そうとしていた時でしたので仲間と話して「ぜひやってみよう」ということになりました。

何人くらいの学生が関わったのですか？

MC(司会)2名、音響2名、タイムキーパー、プロデューサー、ディレクターの7人でやりました。

難しいですね…。2週間で2時間番組を作らなければいけなかったのかなあ。時間がなくて(メンバーの中には)徹夜で原稿書いたりしてましたね(笑)。内容は、他大学がまじめ路線でいくなら松大はバラエティ路線でいこうということになりました。

当日はどうでしたか？

楽しかったです。頭で考えていたことと実際は違いましたね。実際バタバタしてしまいました。(松大の)前の番組が時間を押ししてしまい大変でした。

聞いた人の感想はどうでしたか？

聞いていたギャラリーのお客さんが「松大が一番よかった」と言ってくれました。大学生らしい放送ができたと思います。

実際やってみて難しかったことがありましたか？

放送前日になって、広報の方から台詞とかを細かくチェックしてもらいましたが、それが前日で焦りました。急ぎょ台本が変わったりして…。でもいろいろと勉強になりました。

また話があればやりたいですね。放送部を立ち上げて最初は校内で活動をしていきたいです。名前と実績が認められれば、最終目標としてインターネットを使用して動画の生配信で全世界の人に松大の情報を伝えていきたいです。

夢ですね。みんなで協力して1つの作品を作るという素晴らしさを実感しました。今の時代は放送とインターネットの融合の時代だと思うんですよね。ハイビジョンカメラで番組制作をしていきたいですね。夢が現実になれば…。あと、今後の予定として、放送局への研修、卒業式・入学式の取材をして4月以降に学内で放送する予定です。



インタビューのお相手:原 弘道さん(総合経営学部1年)

竹炭プロジェクト

重要文化財馬場家住宅の竹を有効利用

この竹炭は平成16年の冬に観光コースのゼミで重要文化財馬場家住宅の竹を切っしてほしいと頼まれたのが始まりです。竹を切ったのはいいのですが乾かすまでに時間があり、ゼミの活動ではしにくくなってきたのでそれを受け継いで「社会活動」の授業の一環でやり始めました。

なぜ竹炭だったのですか？

まず有効に使ってもらえるもので考えた時に竹炭がいいのでは…ということになりました。竹炭なら自分たちも手を付けやすいと思いました。

難しいですね…。竹炭を後輩が受け継いでやってくれることですかね。活動範囲も少しずつ広がりそうなので、それをきっかけに地域のいろんな人たちと交流が深まっていくと思うんですよ。周りの家にも竹を切ってくれと言われていたみたいなので。

竹炭はどのくらいの期間でできるのですか？

竹を切ってから半年間乾かし、その乾燥させた竹を均等の大きさに切ります。均等にカットした竹を炭にしやすいように太さごとにそろえて3~4等分に割ってから炭焼きの機械に入れて焼きます。温度を見ながら調整して、だいたい1週間で出来上がりですかね。機械は一ノ瀬鉄工所の方にお借りました。できた竹炭はどうしたんですか？

2回作ったんですが、1回目は半分くらい馬場家住宅へ、残りのもの(100gのものが100袋)は大学祭で売りました。今は馬場家住宅でも販売しています。

売れ行きはどうでしたか？

大学祭ではなかなか好評でした。新村婦人会の方々に出張販売したら好評だったので主婦をターゲットにした販売方法を考える必要があるのでは…と思いました。

お年寄り自分たちで竹を切ることが難しいので、それを私たちが手伝えば…。竹を切っただけではなくて切った竹も今回みたいに有効に活用して地域の人たちに貢献できればいいな。あと、今の段階では年間を通して(竹炭の)販売をしているのが馬場家住宅だけなので、他に置いてもらえる場所を探していきたいですね。前回作成した竹炭の説明書も文字ばかりで読みづらかったので、次回からはイラストを入れた説明書を新しく作成する予定です。

馬場家住宅を多くの人に知ってもらうための第一歩。

インタビューのお相手:小穴 悦子さん(総合経営学部4年)

今回は2事業の活動を紹介しました。今もたくさんの事業が芽を出しています。皆さんの想いを、地域づくり考房『ゆめ』はサポートしていきます。

地域づくりにかかわる コーディネーターサロンを開催しました!!

地域づくりのキーパーソンそれはコーディネーターです

“わたしたちの暮らす地域を元気にしよう！”をテーマに、2005年12月8日に地域づくりのコーディネーションに興味関心のある学生9名と地域の各分野で「地域づくりにかかわるコーディネーション」をすすめていらっしゃる方26名が参加し、松本大学・地域づくり考房『ゆめ』にて開催されました。

“地域づくり考房『ゆめ』ってどんなところ？”という地域からの声にお応えし、地域づくり考房『ゆめ』の機能と役割等を紹介した後、ここを基点にすすめているプロジェクトやその活動に取り組む想いが各学生から紹介されました。

情報交換会では、“まずはお互いを知ろう”ということで、「この想い聞いて！」と題し、“ハッピーだったコーディネーション”“コーディネートをやる上で困ったことや課題点”を出しながら自己紹介が行われました。出された課題を整理し、5テーマ（右頁参照）を選定。各自関心のあるテーマ別に分かれ、課題解決にむけ話し合われました。

最後に“地域づくりにかかわるコーディネーターの役割とは!?”と題しさらに話し合いを進め、コーディネーターの役割を明確にしました。

話し合いは「ボランティア・市民活動研究会ながの」のメンバーがファシリテーターとなり、グループワークで進められました。

メインファシリテーター：福島 明美



福祉ひろば、公民館、図書館、福祉施設、自治会（町内会）、NPO法人、ボランティアグループ、社協、行政（地域づくり課、教育委員会、国際課）、商工会議所、大学と分野も立場も違う方々が集い、新たな出会いとネットワークづくりへの一歩となった。



～地域の参加者の方からの声です～

去る12月8日、初めて考房『ゆめ』にお邪魔しました。そこで見たのは楽しそうな皆さんの顔に驚きました。地域づくりは、快適な空間づくりですが、人と人との信頼関係の上に成り立つもので、そこに到達する道のりを知っているのに、すでに達成の喜びを噛みしめているかのように見えたからです。多分“地域づくりは楽しくなくてはいけない”との教えが浸透しているのだと頼もしく感じました。松本大学が地域に根ざした活動が出来る源は此処だ!!と確信しました。

当日開催されたコーディネーターサロンのグループワークでは、立場の違う方々の実践での問題点や、今後の取り組み方等の提案もあり、良い勉強になりました。

松本一本ネギの取り組みは、新しい土地でのまちづくりに、地場産の「玉葱」を活用してと考えていた私には大変参考になりました。久しぶりに、楽しい時間と、元気をもらいました。皆様の一層のご活躍を祈念しつつ、帰路につきました。ありがとうございました。

安曇野市 内山 金蔵

～参加した学生からの声です～

私は福祉に関心があり、将来自分で福祉施設を立ち上げるのが夢です。その為には様々な人達とのネットワークが必要です。今回、地域でコーディネートする人達といっしょに話をして意見を出し合い、コーディネーターの役割について勉強しました。その中で、地域での役割の固定化ではなく相互交流できるネットワークづくりの場が必要という意見が出されました。

ネットワーク化が進めば、お互いに支え支えられる関係ができてきます。自分も夢に向けて、今のネットワークを大切にしながら新たな出会いを大切にこれからもっと輪を広げ活動を続けていきたいと思えます。

総合経営学部 4年 古田 秀和

- 参加された皆さんは様々な場所で活躍されていて、考え方や意見も様々でしたが、自分の班では「意識・考え方・人種・年齢などの違う人をどうつなげていくか」という共通したキーワードがありました。簡単なようで難しいテーマだったので、自分には解決策のようなものは考えつきませんでした。話は尽きることなく次から次へと様々な意見が飛び交いました。立場や職業の内容が異なっているにもかかわらず、みんなの目標としていることがよく似ているということを知ったとともに、自分の考え方はまだまだ甘いなど改めて感じ、自分の視野が広がりました。
- 総合経営学部 1年 隠居 綾



出されたテーマと意見

活動を継続する上でのコーディネーションと
それにおけるコーディネーターの心構え

- ・認められる 意欲につながる
- ・ねぎらいの言葉
- ・反省会・グチを聞くのが大切
- ・その場で解決
- ・失敗 = みんなの失敗、成功 = 個人を褒める
- ・何のためにやるのかの共通認識に
- ・楽しみを時々取り入れる
- ・ボランティア仲間同士の助け合い
- ・職員 = ボランティア = 利用者 共通認識を
- ・ボランティアの受け入れ側の理解

100人の1歩より1人の1歩！主体性
を持って行動するって・・・？

- ・人材登用（コーディネーターの選び方）
- ・人材登録
- ・地域情報 専門家との連携
- ・地域での活動の把握
- ・情報提供の検討
- ・民生委員さんとかかわり
- ・楽しいことをやる
- ・自分の思いを吐き出す場の必要性
- ・種をまいて成長を見守る



目指すもの(目標)は同じであるのに、それぞれバラバラに取り組んでいる
現状をどのようにつなげていけばよいか？(ネットワークづくり)

- ・地域づくり 住みよい空間をつくる(最小単位のネットワーク)
- ・地域での役割の固定化でなく相互交流できる場づくり ネットワークへ
- ・輪ができるとそれがネットワークになり、ボランティアを受けたり、
支えたりの関係ができるのでは？
- ・対等な関係をいかにつくるか 信頼関係
- ・地域のための役割を果たすことが重要
- ・ネットワーク化にはよりどころ・場が必要
- ・地域と行政をどうリンクさせるか？
- ・主体性とサポートのバランス
- ・これからのネットワークは、熱い思いを持った主体的に動ける人材がポイント
目線の見直し 行政は地域へ



意識・考え方・人種・年齢などの
違う人をどうつなげていくか？

- ・仕事ありきで人を集める
- ・自分を必要とされる環境を作る
- ・最低限のルール、マナーを共通認識とする
- ・共通点と違いを整理してそれぞれの役割を
明確にし、分担する
- さらに共通するところは協働しましょう！

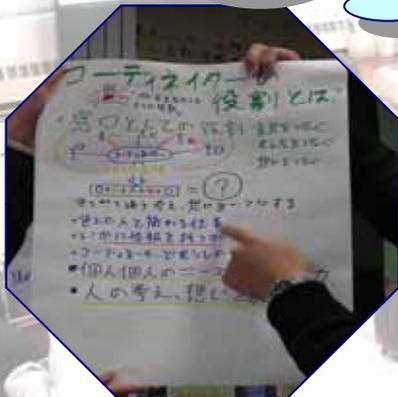
いかにして人を呼び込むのか？

- ・共感できる仲間を集める
 - ・仲介の場をつくる
 - ・自分から外に出て行くこと
 - ・ニーズに合わせた活動づくり
 - ・「自分が必要とされている」と感じる活動づくり
 - ・1歩飛び出してもついてきてくれないこともあるので、活動を始める前に仲間と話す
 - ・年齢差、経験の差をつなぐこと
- どうやって実現させていくかが問題

上記の意見をもとに・・・

地域づくりに関わるコーディネーターの役割とは!?

- 池に石を投げこむような役割
- 情報収集と発信
- キーパーソンの発掘
- 地域に根ざした継続性の強い役割
- 色も形も違う考え・想いをつなげカタチをつくる
- 個人個人のニーズに対応する力、人の考え・想いを感じる力が必要
- 思いを実現させられる(仕掛人)
- 視野を広く、いろいろなところに目を向ける
- 地域の芽を見つけ出す
- 信頼関係を作り、共感し合える
- 両者をバランスよくつなぐ
-



「松本一本ネギ」の復活にむけて — J A松本市女性部と松本大学生との取り組み—

平成18年1月7日、MウイングにてJ A松本市女性部新年会が行われ、松本一本ネギの復活にかかわってきた女性部員をはじめとする地域の方々や松本大学生による創作劇「松本一本ネギ物語」が上演されました。



「松本一本ネギ物語」への協力 ありがとうございました

平成18年を迎えて間もない1月7日、当女性部の活動発表会にご協力いただき楽しい舞台発表が出来、心より感謝申し上げます。孫のような学生のみなさんと「一本ネギ」の創作劇で2時間にわたるステージが盛大に出来大変うれしく思いました。

3年前、白戸先生との出会いがあり、「松本一本ネギ」の活動が生まれました。今回は、松本大学の学生さんに和太鼓や吹奏楽の演奏、音響、照明他劇中出演といろいろな形でかかわっていただ

き、キビキビとした素直さがとても印象的でした。

この3月、第1期生のみなさんが卒業のときを迎えます。またどこかで出会うこともあろうかと思いますが、「松本一本ネギ」とともに我々J A松本市女性部を学生時代の1ページとして思い出して下さい。また在学のみなさんはこれからもよろしくお願い致します。

(J A松本市女性部 中田雅美)

松本地方に古くから伝わる農作物「松本一本ネギ」の伝統を守り、復活させよう！

3年前よりJ A松本市女性部では積極的に「松本一本ネギ」の復興活動が行われてきました。地産地消という概念のもとに安全性と安心の「心と体を育てる食卓を目指しつつ、更に地域を元気にという大切な視点で“松本一本ネギ”のもつ役割は一段と大きくクローズアップされつつあります。昔も今も変わりなく、ごくありふれた「暮らしの中の香り」、生活の中で息づいてきた「松本のよき伝統」を松本一本ネギに関わってきた全ての人々が集まり、「松本一本ネギ物語」の劇が上演されました。

劇の終幕時、全出演者・スタッフ一人一人が劇にかけた想いをコメントしました。そこで、私は一本ネギの中に伝統や文化を守ろうとする人々のメルクマーク

(目的)を感じました。それぞれが違う個性や能力を持って活動に取り組んできましたが、「一本ネギを復活させよう」という皆さんの想いは一緒でした。舞台の総合演出であり、総監督をした中田雅美さんは私にこんな言葉をかけてくれました。「丸山君、いっぼん君というキャラクターがいて、活動に参加するみんなに愛されたからこそ、今までの活動が進行し、今回の劇が成功した」と。私は、この言葉をもらい初めて、自分自身がやってきたことの“重み”を感じました。私がやったことは、地域の方々から「松本一本ネギ」が気軽に愛され、浸透させるための一つの手段でした。私の他にも、大学生協で松本一本ネギを取り入れた「春ネギゼミナール」や様々なキャンペーン活動をしてきた生協学生委員長の田中康文さん他多くの学生がかかわってきました。地域の方々と松本大学学生の力が集まって松本一本ネギの活動は成長したのだと考えます。



キャラクターのいっぼん君

(松本大学総合経営学部4年 丸山拓也)

松本平の食材と塩尻ワインで地域を元気に



～ 桔梗ヶ原のワインを軸に地域独自の食の魅力を創出しよう～

2005年11月24日、松本地方事務所主催で五一ワインと蓼科中央高原のレストラン&ホテル エスポワールの藤木シェフの協力で開催されました。林ワイナリー、肉牛を生産する塩尻の農家、洗馬焼の陶芸家、塩尻商工会議所、行政など関連する異業種・異文化から多数の参加があり、桔梗ヶ原のワインと地元食材を使ったフランス料理を味わいながら、新しい地域独自の食の魅力の可能性を探りました。また、試食する際に食材担当者から、開発意図や課題についての話がありました。本学学生7名も参加し、忌憚ない意見も出、産学官連携の萌芽も生まれました。

地域独自の食の魅力を創出しよう

～ 松本平の食材を使ったフランス料理と桔梗ヶ原のワインとのコラボレーション～

松本産いのししのシベ(赤ワイン煮込み)

長野県でも注目されてきているジビエ(野禽獣)。しっかりと脂の乗ったいのししを赤ワインで煮込んだ伝統的な料理。



松本
松本産いのしし
いのししのバラ肉(または肩ロース)
スペリオル(メルロ)にカベルネをブレンドした赤ワイン)



産地
地元食材
その他の食材
相性のよいワイン

夢あさひ石臼小麦 バゲット (フランスパン)

長野県が開発した独自品種、愛・地球博の長野県ワークショップでも好評の小麦粉使用。



四賀村
夢あさひ石臼小麦

信州黄金シャモと松本平の野菜の煮込み ポトフ仕立て

松本平
松本平の地野菜
信州黄金シャモ、キャベツ、にんじん、セルリー、たまねぎ、にんにく等
エステートゴイチ(竜眼樽発酵の白ワイン)

松本平の季節の地野菜と信州黄金シャモを使ったスープ。



塩尻産和牛もも肉のグリル ぶどうの香り(ボルドー風)

ぶどうの剪定後の枝を使用してグリルする香り豊かな肉料理です。塩尻桔梗ヶ原の材料でフランスボルドー料理を再現。



塩尻
黒毛和牛もも肉
和牛もも肉、大鹿村山塩
メルロ三種(ヴィンテージ
違いの赤ワイン)

ラ・フランス(洋梨)を使ったデザート

完熟した洋ナシ(ラ・フランス:塩尻産)を使って風味豊かなデザート。



塩尻
ラ・フランス(洋梨)
洋梨(ラ・フランス)
貴腐ワイン(甘口白ワイン)



塩尻
ワイン
ジュース(りんご、ぶどう)

ここに掲載の長野県内の地図は長野県公式ホームページの承認を得て使用しています。

～ 参加した学生からの声です～

今まであまり気に留める事がなかった食材がワインとの組み合わせにより、お互いが持っている魅力をさらに引き出され、新しい楽しみ方を発見できました。

料理が好きなので、これからは様々な組み合わせにチャレンジしたい!

ワインと一緒に、地元食材を使った料理のレシピや各場面設定に合ったお薦めの商品を紹介するなどの工夫をすれば、ワインが苦手な人にも手を伸ばしてもらえるのでは...

TPOに合わせたワインの紹介があれば...

地元出身なのに、こんなに素晴らしいワインや食材があることを知らなかった!

そのワインに合った料理のレシピを添えるなど、ワンポイントアドバイスみたいなことをやってみては...

いのししの肉や、黄金シャモ、塩尻産和牛もも肉は貴重なもので、やわらかくて味付けもおいしかった

塩尻のワインを基本に他の有名なワインも扱えば...

料理とワインの組み合わせでこんなに味わいが変わることを発見できた。

ワインは洋食だけでなく和食にも合うんだ! というようなオリジナルの料理が作れば...

ものぐさパソコン教室第2期学生アシスタント募集

目的 地域住民向けパソコン講座「ものぐさパソコン教室」の第2期開講にあたり、アシスタント募集
対象 松本大学の学生
内容 地域住民の方々のパソコン操作補助と講座の手伝い
日時 2月16日(木)、2月23日(木)、3月2日(木)、3月9日(木)、3月16日(木)
 いずれも18:30~21:00
場所 松本大学311教室
実施主体 松本大学ものぐさパソコン教室

「安曇野の観光を考える会」開催のお知らせ

目的 松本大学および松本大学松商短期大学部では、エコ・ツーリズムあるいはグリーン・ツーリズムの観点から、安曇野の観光のあり方を考えることを目的に開催します。
対象 安曇野の観光のあり方に興味のある方
内容 〔第1回〕経験交流会 自由討議
 司会・松本大学副学長 住吉広行
 〔第2回〕シンポジウム「滞在型の安曇野観光」
 コーディネーター・松本大学副学長 住吉広行
 パネリスト ・未定
日時 〔第1回〕2月18日(土)
 〔第2回〕3月4日(土) いずれも13:00~16:30
場所 松本大学
実施主体 松本大学エクステンションセンター

よりよい情報保障を目指して～長野県聴覚障害学生情報保障シンポジウム～

目的 ・情報保障を受ける聴覚障害学生と支援に関わる人との意見、情報交換を図る
 ・高等学校機関での情報保障体制における問題を共有し、よりよい情報保障について考えていく
 ・高等教育機関における情報保障の現状や課題を広める
対象 どなたでも
内容 情報保障についての基調報告
 パネルディスカッション、意見交換
 発会式
日時 2月25日(土) 10:00~15:30
場所 松本市市民活動サポートセンター
実施主体 (仮称)長野県聴覚障害学生とともに歩む会
資料代 500円

2006年耳の日記念文化祭

目的 日頃の活動の一端を紹介しながら、広く皆様と聴覚障害者とが楽しく触れあうことを目的としています。住み慣れた地域の中で、障害をもちながらもイキイキと暮らすために、考え、悩み、行動して力を蓄えるとともに、自らが積極的に参加し、多くの方々と交流することが大切と感じます。
対象 どなたでも
内容 ・手話コーラス・グループワーク・ボディパーカッション・活動発表・聴導犬デモンストレーション・フラメンコ・ビデオ上映・ヴァイオリン演奏・バンド演奏・ビデオ上映等
日時 2月25日(土) 9:30~15:00
場所 Mウィング 松本市中央公民館6階ホール
実施主体 松本市聴覚障害者協会

学生による教育活動支援ボランティア募集

目的 学校の様々な教育活動(特に校外へ出での活動)に対して、引率職員だけでは、児童の安全管理が十分に出来ない場面が出てくる。特に、自律学級の校外活動において子ども達のお兄さんお姉さんとして参加していただき、子ども達と活動を行ったり、身の回りの世話や活動時の安全に気を配ってもらえる学生のボランティアを募集したい
対象 学生
内容 山形小学校・自律学級の校外学習での付き添い
日時 3月6日(月) 10:00~14:00
場所 アイシティ21(長野県東筑摩郡山形村)
実施主体 山形村立 山形小学校

ACアルテレガータ 公開練習のボランティア募集

目的 ACアルテレガータは、「学校を超えた地域のチーム」「地域密着型のクラブチーム」です。「子供達の健全育成」をチームの最大の目的としています。
対象 学生
内容 サッカー練習のサポート
日時・場所
 2月18日(土) 13:00~15:00 本郷体育館
 2月25日(土) 13:00~15:00 岡田体育館
 3月12日(日) 17:00~19:00 本郷体育館
 3月19日(日) 10:30~12:30 本郷体育館
実施主体 AC アルテレガータ
 その他 連絡先・若林(事務局:0263-36-7337)

～ ちょっと一言 ～

地域交流サークルの4年生と地域の方々を招いた「卒業生を送る会」を、私たちは2月12日に行った。地域の方々の発表や4年生それぞれのプロフィールをパワーポイントで先輩たちが発表するなど、内容は充実したものとなった。準備は大変であったが、無事に終えることができ、また4年生に喜んでもらえるものができ、良い卒業のお祝いできたと思う。

先輩方が卒業してしまうのは、正直寂しいが良い門出を迎えてもらいたいと心から思っている。

(島崎)

インフォメーションへの問い合わせ「ゆめ通信」へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



編集・発行：松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1
 Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)
 Fax: 0263-48-7290
 E-mail: community@matsu.ac.jp